

西紀っ子だより



〒669-2716

兵庫県丹波篠山市乗竹650

TEL：079-593-0024

FAX：079-593-0249

Email：el-nishiki@school.sasayama.jp



未来を切り拓き、夢をかなえる力の育成～郷土を愛しこころ豊かにたくましく～

(文責：藤原典英)

力強く駆け抜ける一年に～本年も宜しくお願いいたします

西紀中地区の皆様、平素は西紀小学校の学校教育活動へ御理解と御協力を賜り、まことに有難う御座います。皆様におかれましては、どのような年末年始を迎えられましたか。

今年は午年です。加えて、60年に一度の丙午。いつも以上に力強く前に進むことの出来る一年になると信じています。新しい学校の姿・新しい地域の姿を模索しながら、学校・保護者・地域が一体となって、地域の子どもに皆がかかわり、皆で子どもを育てていける様なコミュニティを創っていきましょう。また、スクール・コミュニティという理念のもと、学校を中心として、地域が更に元気になる様なかかわりかたも考えていきたいです。

本年も、西紀小学校の子ども・教職員、そして教育活動へのご支援を宜しくお願い致します。地域の皆様も健やかに歩める一年となりますよう、心より祈念しております。

出し切る三学期に～今を生きよう、生き切ろう～

1月7日（水）に、全校生が登校して皆が顔を合わせることが出来ました。先ず、始業式初日に皆が揃ったということを実際に嬉しく思いました。これも保護者の皆様のお力、そして地域の方の見守りがあってのことだと強く感謝の念を抱いております。有難う御座いました。

始業式では、先ず、3学期の登校日は「51日（6年生は50日）」だということを子どもたちに伝えました。それも、ただ51日（50日）とまとめて捉えるのではなく、1月は17日・2月は18日・3月は16日（15日）、と月ごとに日数を把握して欲しい旨を伝えました。そうすることで、ただ「51日（50日）」と思うよりも、月ごとの目標が立てやすくなったり、残りの日数の少なさが把握しやすくなったりするからです。

三学期は、一年のまとめの学期となります。自分はこの一年何を学習してきたのだろう、どのような道筋を通してどのような成長をしてきたのだろう、とふり返り、その成長を表現する学期となります。

そのためには、「これは明日でいいかな」とか「明日からちゃんとしよう」という考えは、自分の中から追い出さなければなりません。明日がある、明後日がある、と考えている間は、その人の中には「何もない」と同じです。肝心の「今さえない」のですから。2学期終業式に、「本気」を出す話をしましたが、まさに今を一所懸命生き切る人しか、自分の中にある「本気」は出せません。短い三学期、これまで自分が積み重ねてきた「自分」という人間を、完全に出し切って欲しい、燃やし切って欲しい、という願いを子どもたちに伝えました。繰り返しますが、だからこそ、今この瞬間を生き切ることが大切なのです。今、この時を、この瞬間を、全力で生き切るのです。

また、午年に因み、「天馬空を行く」という言葉も紹介しました。これは、天馬（天馬というのは、天上界に居て、天帝が乗る馬を指します）が空をかけるように、着想や行動などが自由奔放で、何のものにもとらわれることのない様子を例えた言葉です。この三学期は、子どもたちに、自分が思うことや願うこと、夢見ること、取り組んでみたいこと等々に、自分で制限を設けることなく、先ずチャレンジして欲しいと願っています。この世の中で、一番乗り越えるのが難しいのは、自分の中にある自分で決めたハードルです。しかしだからこそ、取り払うのが簡単に出来るのも自分自身の中にあるハードルです。その様なアンビバレンツなハードルに向き合ってこそ、乗り越えた先に大きな成長があります。

そして、子どもの学びと教師の学びは相似形、と考えています。この三学期、子どもが天馬となるために、先ず教師が自分のやりたいことに生き生きと取り組んでいける様に、校長として支援していきたいと考えています。教師が天馬となり自由に空をかける姿を見せることで、子ども自身が感じている思い込みや制限を外し、共に大空をかけられる様に。



○阪神・淡路大震災から三十一年○

1995年1月17日午前5時46分、兵庫県南部を大きな地震が襲いました。6434名の方が亡くなる、阪神・淡路大震災でした。あれから31年を迎えた今年、益々「伝えていくこと」の大切さと難しさを感じています。

1月15日（木）には地震を想定した避難訓練を行いました。天災はいつやってくるか分かりません。今回は、訓練開始の時刻を子どもたちに伝えずに行いました。10時30分、大休憩のど真ん中の時刻です。子どもたちは2時間目の授業を終え、思い思いの場所に散らばり、友だちと遊んでいる最中です。地震を知らせる放送が流れました。子どもたちは、直ぐに遊ぶのをやめて、教室に居る者は机の下に隠れ、校庭に居る者はトラックの中央に集まって身を寄せ合っています。放送設備が故障して使えない設定で進めると、近くの教員の指示をよく聞き、自分たちで主体的に行動し、避難を始めました。中には、「ガラスの破片」が飛び散っていることを表すラミネートカードを見つけると、「ガラスがあるから気をつけて」と自分たちで声をかけあって避難する姿も見られました。「いつもの訓練」と捉えることなく、真剣に臨む姿に感心しました。訓練の最後には、「いのちはひとつしかない、一秒でも早く避難することで助かる命がひとつでもふたつでも増える、先ず自分の命を守ることを考えよう」という主旨の話をしました。

避難訓練の翌日、1月16日（金）には、メモリアル集会と地域防災訓練を行いました。メモリアル集会では、31年前の神戸新聞を取り出しながら話をしました（当日から1995年3月31日までの神戸新聞をこの31年間、ずっと保存しています）。1995年1月17日当日の新聞は、いつもの毎日と変わらない新聞です。一面には政局に関するニュースが報じられており、スポーツ欄も、地域欄も、読者の声の欄も、そしてテレビ欄も。誰もが、この新聞を手にした時、いつもと同じ朝が来たと思ったでしょうし、今日も明日も変わらない一日が続くと信じていたと思います。ところが、地震が全ての日常を奪ってしまいました。翌日の新聞は総8ページです（それでも発行しようとした神戸新聞社の方々の執念に尊敬の念を禁じ得ません）。見出しは「死者1300人」。まだ地震の全貌も明らかになっていませんでした。翌日の見出しは「死者2500人に」、その翌日は「死者・不明4200人」…インターネットもない時代、情報はテレビ・新聞・ラジオが頼りでした。新聞の見出しで毎日増える死者・行方不明者数を見る度に、神戸を中心とした兵庫県南部に家族や親族、知り合いが居られる方々の不安はいかばかりだっただろうか、と思います。地震や災害は、それまでの日常を一瞬で奪ってってしまう、だからこそ、平時の備えが必要である、ということが伝わっていれば、と思います。また、何よりも明日は必ずやってくるものではない、だからこそ今この一瞬を生き切るのだ、ということ子どもたちには考えて欲しいと願っています（始業式の話と同じです）。亡くなった方々の分まで生きる、という考えもあるかもしれませんが、私は、亡くなった方はそれは強く望んでおられないと考えています。もし望んでおられることがあるとすれば、「あなたの人生を精一杯力一杯生きてくださいね、人生は今この時しかないのですから」ということではないでしょうか。メモリアル集会では、兵庫県の教職員でつくる震災・学校支援チーム（EARTH）隊員である、篠山小学校の福崎先生からのお話もうかがいました。ご自身は0歳児だったそうです。自身やご家族の経験も交えながら、「兵庫県の教職員だからこそ伝えていきたい」という思いが伝わってきました。あの地震を実際に体験していない人たちが増えていく今だからこそ、学校で何が出来るのか、学校には何が出来るのかを考え続けていかなければなりません。

最後になりましたが、地域防災訓練に参加いただきました保護者の皆様、地域の皆様、本当に有難う御座いました。今後とも「地域と防災」について、共に考えていきましょう。



△ 2月の行事予定 ▽ ※学校のホームページからも行事予定が確認出来ます。変更分もそちらから確認出来ます。

2日（月）	全校朝会 3年生黒豆調理	13日（金）	クラブ活動・代表委員会
3日（火）	4年生スクールブリッジ（西紀北）	16日（月）	ふるさと朝会
4日（水）	5年生間伐体験	17日（火）	5年生木工体験
6日（金）	みんな遊び	18日（水）	朝のお話会
	全校集会 14:45 ※市内教職員研修会場となるため	20日（金）	参観日・学級懇談会
10日（火）	委員会活動		西紀中制服受け渡し
12日（木）	6年生校外学習	25日（水）	前期児童会選挙
		27日（金）	委員会活動・代表委員会



◎ご意見・感想をお聞かせ下さい◎

「西紀っ子だより」へのご意見や感想をお聞かせ下さい。
右のQRコードを読み取っていただくと、フォームにつながります。
または、学校でお話をうかがうことも出来ます。いつでもお越しください。

